

法界のすがた妙法蓮華經の五字にかはる事なし。釋迦多寶の二佛と云も、妙法等の五字より用の利益を施し給ふ時、事相に二佛と顯れて寶塔の中にしてうなづき合給ふ。かくの如き等の法門日蓮を除ては申出す人一人もあるべからず。天台妙樂傳教等は心には知給へども言に出し給ふまではなし。胸の中にしてくらし給へり。其も道理なり。付屬なきが故に、時のいまだいたらざる故に、佛の久遠の弟子にあらざる故に、地涌の菩薩の中の上首唱導上行無邊行等菩薩より外は、末法の始の五百年に出現して法體の妙法蓮華經の五字を弘め給のみならず、寶塔の中の二佛竝座の儀式を作り顯すべき人なし。是即本門壽量品の事の一念三千の法門なるが故也。されば釋迦多寶の二佛と云も用の佛也。妙法蓮華經こそ本佛にては御座候へ。經云 如來祕密神通之力是也。如來祕密は體の三身にして本佛也。神通之力は用の三身にして迹佛ぞかし。凡夫は體の三身にして本佛ぞかし。佛は用の三身にして迹佛也。然ば釋迦佛は我等衆生のためには主師親の三德を備へ給と思ひしに、さにては候はず。返て佛に三德をかふらせ奉るは凡夫也。其故は如來と云は天台釋に如來者十方三世諸佛。二佛三佛本佛迹佛通號と判じ給へり。此釋に本佛と云は凡夫也。迹佛と云は佛也。

然ども迷悟の不同にして生佛異なるに依て、俱體俱用の三身と云事をば衆生しらざる也。さてこそ諸法と十界を擧て實相とは説れて候へ。實相と云は妙法蓮華經の異名也。諸法妙法蓮華經と云事也。地獄は地獄のすがたを見せたるが實の相也。餓鬼と變ぜば地獄の實のすがたには非ず。佛は佛のすがた、凡夫は凡夫のすがた、萬法當體のすがたが妙法蓮華經の當體也と云事を諸法實相とは申也。天台云、實相、深理本有、妙法蓮華經云。此釋の意は實相の名言は迹門に主づけ、本有妙法蓮華經と云は本門の上の法門也。此釋能心中に案じさせ給へ候へ。日蓮末法に生れて上行菩薩の弘め給べき所の妙法を先立て粗ひろめ、つくりあらはし給べき本門壽量品の古佛たる釋迦佛、迹門寶塔品の時涌出し給ふ多寶佛、涌出品の時出現し給ふ地涌の菩薩等を先作り顯し奉る事、予が分齊にはいみじき事也。日蓮をこそにくむとも内證にはいかが及ん。さればかゝる日蓮を此島まで遠流しける罪無量劫にもきへぬべしとも覺へず。譬諭品云、若説其罪窮劫不盡とは是也。又日蓮を供養し、又日蓮が弟子檀那となり給事、其功德をば佛の智慧にてもはかり盡し給べからず。經云、以佛智慧、壽量多少不得其邊と云へり。地涌の菩薩のさきがけ日蓮一人也。地涌の菩薩の數にも